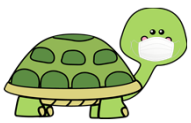
屋内マスク着用義務が解除

2年間に渡ったマスク着用義務がついに解除されました！
地元の人々は引き続き着用している人が多いですが、観光客が多いワイキキではマスク無しの人も多く見られます。
ただし、公共交通機関や病院の建物内では引き続きマスク着用が義務付けられているので注意。



（2022年3月29日　ハワイ報知より）

屋内マスク着用義務 ほぼ全面解除

初日、市民の反応はさまざま

【ホノルル・スター・アドバタイザー】25日午後11時59分で、ハワイは屋内でのマスク着用義務が解除された。これにより、2年間新型コロナ感染症に対応して実施されてきた屋内マスク着用義務とセーフ・トラベルズ・プログラムの2つの制限がほぼ全面的に撤廃された。26日から、食料品店、映画館、スポーツジム、ショッピングセンター、モールなど、多くの公共の場でマスク着用義務はなくなったが、あくまでも「任意」であるため、場所によってはマスクを求められる可能性がある。

アラモアナ・センターやパールリッジ・センターなど、オアフ島の主要ショッピングセンターの多くは、26日から屋内の共有スペースでのマスク着用は不要になったが、個々の店舗やレストランは独自の規則を設定することができる。そのためアラモアナ・センターでは、念のためマスクを持参するよう買い物客に勧めている。

マスク着用義務の解除に対する市民の反応は今のところさまざまで、マスクを外して平常な生活に戻れることを喜ぶ人もいれば、感染力の強いBA・2オミクロン亜種が発生しているため、マスクの着用を続けるという人もいる。

カイルア在住のサマー・キャスターさんは、2年ぶりに屋内でマスクをする必要がなくなり、一歩前進した気分だと喜んでいる。

一方、アラモアナに住むドロシー・レイサムさんは、症例の変動を見ながら、あと数週間はマスクを続けるつもりだと話し、ホノルル在住のジャン・ハヤシさんは、自宅や車の中以外の屋内では、これからもマスクをするつもりだと語った。

ジョシュ・グリーン副知事は、米疾病予防管理センター（CDC）のガイドラインと統計に基づき、ハワイに残っていた2つの規制を解除するのは今が最適な時期だと述べた。

「亜種が急増した場合や他に懸念が出てきた場合は、CDCの科学的知見に従う必要がある。科学に従うことは大切だが、同時に終わらせるべきものは終わらせたい」と副知事。

グリーン副知事は24日、自身が集計した統計から、新型コロナの入院患者はわずか20人となり、1月末にオミクロンの入院患者数がピークとなった383人と比較すると95%減少していると述べた。

travel.hawaii.gov のセーフ・トラベルズ・デジタル・プラットフォームは、26日午前2時、ハワイSMART Health Cardアプリケーションとともに削除された。

州エンタープライズ・テクノロジー・サービス局のダグ・マードック最高情報責任者によると、プログラムを再開する必要がある場合に備えて、Safe Travelsウェブアプリケーションは、従来通り保持される予定という。

ハワイの公立学校、病院の建物内、民間航空機やバス、空港などの公共交通機関では、引き続きマスクの着用が義務付けられており、オアフ島のザ・バスとハンディヴァンでは、乗車中は、連邦規則により常時マスクの着用が必要とされている。

（Nina Wu）

火災安全基準遵守で期間延長要請

コンドミニアムのオーナーが市議会に

【ホノルル・スター・アドバタイザー】コンドミニアムのオーナーは、スプリンクラーの設置や「ライフ・セーフティ検査」に通ることを義務付ける市条例を遵守するための準備期間の延長をホノルル市議会に求めている。

2018年に施行された条例は、死者を出したコンド、マルコ・ポーロされたもので、州内のこの火災をきっかけに制定ンドミニアム合計3万8747戸を含む3323棟が対象となっている。

この条例によると、スプリンクラーが設置されていないコンドは、2024年春までに、建物内の移動性やエレベーターの非常電源など16項目からなる市の「ライフ・セーフティ検査」に合格しなければならない。

しかし、ホノルル消防署の報告によると、これまで検査を受けた178棟のうち、合格したのは12棟のみだったという。

キャロル・フクナガ議員が中心となって16日に開かれた対話集会で、基準適用期限の延長支持者は、検査の仕方に一貫性がないことが障害になっていると述べた。

タッチストーン・プロパティーズ社のジョナサン・ビリングス氏は、「エンジニアリング会社の中には、エレベーターロビーの家具の撤去を義務付けるところもあれば、一切問題にしない会社もあり、解釈が分かれている。専門家が検査の際に従う一貫したガイドラインがない」と指摘した。

市議会は、ホノルル消防局や他の関係者とともに検査基準を作成したが、定義や制限範囲の中には、明らかに解釈に依存するものもある。

「厳しすぎる評価を受けた」とオーナーが主張する建物の再評価を依頼されているダグラス・エンジニアリング・パシフィック社のダグラス・パー社長によると、何を要求しないかは、検査する側の裁量にかかっていると話る。

パー氏はこれまで120件余りの検査に携わったが、オーナーに改修を行う意思があれば、その建物が検査に通らないことはないという。

必要な改修には、ドアの開閉、ラッチの開閉、階段の開鋲、ドアホルダーの取り外し、ドアクローザー（扉締め装置）、穴の補修などがあり、ほとんどの場合、大幅な遅れが見られるという。

経費のかかる項目で、多くのコンドが対応していないのは、寝室でベルが聞こえる火災報知器システムの設置で、パー氏によると、それが重大な消防法違反になることはないという。

パー氏によると、より明白な問題の一つは、建物の構造に、火災が急速に拡大することを可能にする穴が開いている場合だという。

同社がこれまでに調べた建物では、評価検査合格のための改修費用は15万ドルから120万ドルで、その大半は火災報知器システムだという。

パー氏は、「基準を満たす防火システムの設置を必要としている建物がまだ数多くあるため、一律に期限を課すのは非現実的な要求だ」と話る。

タッチストーン・プロパティーズ社のビリングス氏もパー氏に同意し、実現可能な代替案として、改修の期限を段階的に設定し、市の許可手続きが必要な場合には、そのための時間を与えることを提案した。

ビリングス氏によると、スプリンクラー設置の場合、200戸が入るビルの見積もりは450万ドルから700万ドル。

各戸のオーナーが共同でスプリンクラーの設置をするコンドについては、2030年春までに完了する必要があるが、2033年までの延長申請が可能となっている。

ただし、20階建て以上のビルは2026年春までに、10～19階建てのビルは2028年春までに共用部にスプリンクラーを設置しなければならない。

2017年7月のマルコ・ポーロの火災は、568戸のうち200戸が被害を受け、30戸が焼失し、ホノルルの近代史上最悪の火災の一つとなった。この建物はスプリンクラー・システムが義務付けられる以前の1971年に建設された。

（Ashley Mizuno）

2017年7月の火災で568戸のうち200戸が被害を受け、30戸が焼失したコンドミニアム「マルコ・ポーロ」（Photo by Leila Fujimori）

火災安全基準尊守　期間延長要請

2017年に発生したスプリンクラー未設置のコンドミニアムでの火災によって制定された市の条例について、コンドミニアムオーナーが市議会に準備期間の延長を求めているそうです。
この市条例に該当する建物は323棟あるとのこと。

（2022年2月19日ハワイ報知より）

人気ハイキングコースの改修、制限を計画

観光客にも人気のラニカイ・ピルボックス、訪れたことがある方も多いのではないでしょうか？
周辺地域に多くの問題があることもあり、ハイカーの数を制限する案などが出ているそうです。

（2022年3月15日ハワイ報知より）

カイルアの絶景ポイント

トレイルの改修、制限を計画

ラニカイ・ピルボックス　周辺地域に多くの問題で

【ホノルル・スター・アドバタイザー】カイルアの海岸線の絶景が楽しめるカイヴァ・リッジ・トレイル（通称ラニカイ・ピルボックス・トレイル）は、インターネットで話題となり、毎年数万人の観光客が訪れている。しかし、人気には問題がつきもので、実際多くの問題が発生している。

周辺地域は、交通渋滞、駐車場争奪戦、騒音、不法侵入などの問題が起きている状態。尾根の侵食がひどく、雨が降ると泥の川ができ、海まで流れ込む。侵食された急峻な地形での遭難が相次ぎ、ヘリコプターなどの緊急救助は毎週のように行われている。

元ミッドパシフィック・カントリークラブの総支配人ジム・スウィーター氏の言葉を借りれば、「このトレイルは、多くの人にとって大きな頭痛の種に膨れ上がってしまった」。

州土地天然資源局は現在、この状況を改善するための計画を進めている。新たに公表された987㌻の環境アセスメント草案には、トレイルの改善案と、予約許可制によるハイカー数の上限設定などの管理計画が記載されている。

トレイルの物理的な改善には、表面処理、侵食防止策、フェンスやその他の防壁の組み合わせが含まれる。

ラニカイ協会のトーマス・セスター会長は、この状況が改善されるなら何でも歓迎すると述べた。

同時に、トレイル体験をアップグレードすることで、迷惑行為がさらにエスカレートするのではないかとも懸念している。

この1㌔近いトレッキングキングコースは、第2次世界大戦中に砲台を指揮する司令塔として建設された2つの沿岸砲兵隊観測所、通称ピルボックスまで続いている。

ピルボックスへの道は、もともと軍の要員や機材を移動させるための連絡路だった。

戦後、観測所が閉鎖され、観測所と連絡路のある区画が民間に移管された。

地域住民と自然保護活動家は、この尾根を住宅開発から守るために何十年も運動し、1990年代初頭に同区画が州に移管された。

セスター氏は、「この道を歩いても、ほとんど誰にも会わなかった頃を覚えている。一昔前は、10人、20人くらいだったが、今や、5分で20人見かけることもある」と話した。

リサ・マーテン州議員（民主＝カイルア、ラニカイ、ワイマナロ）は、このトレイルとピルボックスは、日の出を見るスポットとしてインスタグラムで有名になったため、暗いうちから大勢の訪問者が周辺にやってきて、坂道を登っている。訪問者は好んで早起きを選んでいるが、周辺住民には寝る権利があると語った。

環境アセスメントの草案作成に当たり、コンサルタントのPBRハワイ&アソシエーツが、周辺住民らの体験について尋ねたところ、早朝の騒音だけでなく、ハイカーがフェンスを飛び越える、敷地内で用を足す、うるさいドローンを飛ばすなど、さまざまな苦情が寄せられた。

「ブルー・ストーン」コンドミニアムは、カエレブル通りのトレイル入り口近くにあるが、住人有志らは、トレイルに入るハイカーを非公式に数えている。それによると、混雑する週末や祝日の日中には、1日に1500人余りのハイカーが入って行った。この数には日の出前に到着する人は含まれていない。

2018年6月のある土曜日には、5時49分の日の出に向けて、5時から5時45分の間に116人の訪問者が確認されている。尾根を下るハイカーの中には、水やトイレを求めてブルー・ストーンの建物へやって来る人もいるという。

ブルー・ストーンの環境アセスメント草案には、「尾根を下る際に自分で道を作り、道に迷い、誤ってブルー・ストーンの敷地内に入ってしまう人もいる。いずれの場合も、フェンスを乗り越えたり、壁をよじ登ったりして、芝生や私道を横切り、侵入している」と記述されている。

スウィーター氏の勤めていたミッドパシフィック・カントリークラブは、トレイル入り口に隣接しており、クラブの敷地に侵入するハイカーが絶えなかったという。

（Timothy Hurley）

周辺地域でハイカーの交通渋滞、違法駐車、騒音、不法侵入などの多くの問題が起きている事を受け、州土地天然資源局は、ラニカイ・ピルボックス・トレイルのトレイルを改善、侵食防止を行い、ハイカーの数を制限する案を検討している。写真は、トレイルにある第2次大戦中に使用された沿岸砲兵観測所の構造物の上に立ち、息を呑むような絶景を楽しむハイカーたち＝カイルア（Photo by Cain Kojima）

ハワイ先住民のクム・フラ

米国のクォーターに登場

エディス・カナカオレさんは、作曲家、エンターテイナー、教育者、ハワイ大学ヒロ校でハワイ語研究の講義コーディネーターとして知られている。（Star-Advertiser）

【ホノルル・スター・アドバタイザー】ハワイ先住民のクム・フラであるエディス・カナカオレさんは3月30日、米国のコインの裏側に著名な女性を描くプログラムの一環として、2023年にクォーター（25㌣）に描かれる5人の女性の一人に選ばれた。

1979年に亡くなったエディス・カナカオレさんは、作曲家、チャンター、ダンサー、教育者、エンターテイナーとしてクム・フラのエディス・カナカオレさんは、作曲家、エンターテイナー、教育者、ハワイ大学ヒロ校でハワイ語研究の講義コーディネーターとして知られている。

その名を知られている。

米国造幣局（USM）は3月30日に2023年の受賞者を発表し、「彼女のモオレロ（物語）は、当時の文化的偏見によって失われつつあったハワイの歴史、習慣、伝統の側面を救う役割を果たした」と述べた。

エディス・カナカオレさんと夫のルカ・カナカオレさんの教えを永続させるために1990年に設立された、ハワイ島ヒロにあるエディス・カナカオレ財団は、「彼女は現代ハワイ文化、および言語の卓越した実践者として認識されている」と語った。

エディス・カナカオレさんの孫娘で財団の事務局長であるフイフィ・カナヘレ・モスマンさんは、財団のウェブサイトへの投稿で、「これは私たち家族にとって、また彼女の遺産と教えを受け継ぎ、故郷と人々のために活動しているエディス・カナカオレ財団にとって信じられないほどの名誉だ」と述べた。

米国の女性クォータープログラムの一環として、USMは2022年から2025年までの4年間、異なる裏面デザインの5種類のコインを毎年発行する予定となっており、各クォーターの側面には、ジョージ・ワシントンが描かれる。

来年、コインに描かれる他の4人の女性は、アフリカ系アメリカ人として初めて国際操縦士免許を取得したベッシー・コールマンさん、ファーストレディーで作家、改革者、人権擁護者のエレノア・ルーズベルトさん、メキシコ系アメリカ人のジャーナリスト、活動家、教師、被差別主義者のジョビタ・イダーさん、アメリカ先住民のダンサーとして障壁を取り除いた、初のバレリーナ、マリア・トルチーエフさん。

2022年の受賞者には、詩人のマヤ・アンジェロウさんや宇宙飛行士のサリー・ライドさんが含まれる。

USMのヴェントリス・C・ギブソン副局長は、「これらの並外れた女性たちの幅広い業績と経験は、女性が常にわが国の歴史に貢献してきたことを物語っている。造幣局が、このような先駆的な女性たちとその画期的な貢献を称え、コインを通じてアメリカを結び続けることを誇りに思う」と述べた。

（Esme M. Infante）

ハワイ先住民のクム・フラが25セントコインに

著名な女性を描くプログラムの一環で、2023年のクオーター（25セント）に描かれる女性にクム・フラのエディス・カナカオレさんが選ばれました！コインが出回るのが楽しみです。

（2022年4月6日ハワイ報知より）